

A photograph of a man in a dark jacket and light-colored pants standing in a wooden boat at night. The boat is illuminated by a large, bright fire in the background, which is reflected on the water. The man is looking towards the camera. The water is dark, and there are some splashes visible. The overall scene is dramatic and atmospheric.

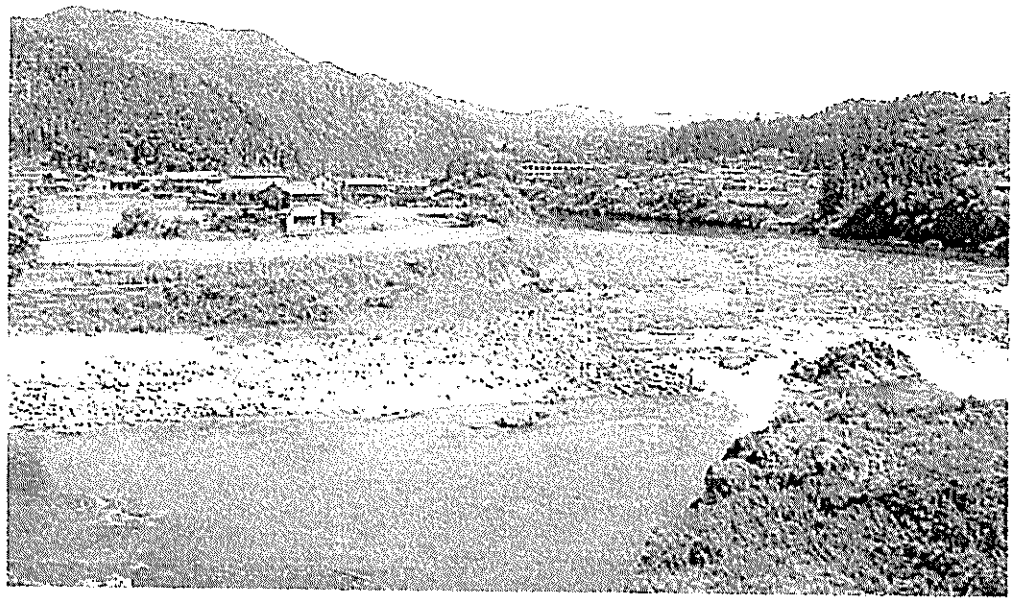
第1部 お話を聞く

# 流域としての長良川と世界農業遺産

裁 成人氏（岐阜新聞論説委員）

## 鮎魚と伝統漁法 認定に向けて

人と川が共生する「里川」の長良川。世界農業遺産認定が待たれる＝郡上市刈安



# 「里川」継承へ協議会

## 世界農業遺産への道

清流長良川の

岐阜県の清流の代名詞「川」と呼ぶ。

であり、全国的にも知られる長良川。その流域には伝統的な漁業、農業、文化、土地景観など有形、無形の貴重な財産が多くある。

県では、人が適正に関与しつつ、生物多様性を保持している地域を「里

川」と呼ぶ。里川という財産を次世代へと継承していくため、県内の農林水産関係者と自治体が「清流長良川の農林水産業推進協議会」を設立した。「清流

長良川の鮎の世界農業遺産認定を目指す取り組みが始まり、昨年10月に

は国内候補に選ばれた。

世界農業遺産は、食と暮らしを支え、優れた景観、文化、生物多様性の維持をもたらしてきた世界的にも重要な農業システムを保護し支援するため、国際連合食糧農業機関(FAO)が創設した。

同遺産は「過去の遺産」ではなく、「さまざまな環境の変化に適応しながら進化を続ける「生きていく遺産」といわれている。

認定を契機に、「清流長良川の鮎」とそれを取り巻く環境を含め、多様な主体の参加による自主的な取り組みや地域の活性化の支援が進められようとしている。

世界農業遺産に昨秋、県内で初めて「清流長良川の鮎」が国内候補に選ばれ、県などでは今年中の認定を目指す。長良川や鮎などにまつわる話題を「清流長良川の農林水産業推進協議会」に加盟する県、岐阜、関、美濃、郡上各市の協力を得てシリーズで紹介する。

## 鮎漁と伝統漁法

## 瀬張り網漁



落ち鮎を狙って行われる瀬張り網漁。長良川中流域の秋の風物詩だ = 岐阜市内

# 中流域「秋の風物詩」

## 世界農業遺産への道

清流長良川の

海と川を行き来する回遊魚である鮎は、秋が深まるころ、産卵のため群れをなして長良川を下る。これが「落ち鮎」である。

長良川の中流から上流に車で堤防道路を走ると、川底に白いビニール

を張り、数本の支柱を立て

て、川を横切って兩岸か

らロープを張っている様

子を見かける。長良川の

中流域では、この仕掛け

を使って「落ち鮎」をと

らえる「瀬張り網漁」と

とともに、水面を叩く音で、鮎を驚かせる。川を下ってきた産卵前の鮎は、その場でとどまり、そこから逃れようと、上流へと引き返す。手慣れた漁師は黒く群れとなった鮎の様子をつかがい、「網打尽」にしようと、きれいな弧を描いて網を打ち多くの鮎を捕獲する。

長良川の「瀬張り網漁」は、9月から11月にかけて、毎年行われている。

## 鮎漁と伝統漁法 鵜飼サミット



長い伝統を誇る小瀬鵜飼。今夏、関市では全国鵜飼サミットが開かれる＝同市内

# 幽玄世界広める契機

## 世界農業遺産への道

清流長良川の鮎

岐阜県が誇る伝統漁法 鵜飼関係者の手によつて、今日まで技術が継承されてきた。長良川鵜飼)と関市(小瀬鵜飼)の2カ所で開催されている。

鵜飼漁は人々の暮らしと深く関わりながら、伝統的な文化として、地域の夏の風物詩として、多くの観客を魅了し、幽玄の権力者たちに保護され、鵜匠をはじめとする

船事業とタイアップした観光資源の一つとして活用され、国内外の多くの観客を魅了し、幽玄の世界へと誘ってきた。

今年に関市で「第21回

全国鵜飼サミット」が開催される。全国12カ所ある鵜飼開催地とウミウ捕獲地の関係者が一堂に会し、情報・意見交換を行うもので、互いに刺激し合い質の向上を図ることを目的に開催されてきた。

今回のサミットの開催を契機に、鵜飼の認知度向上と観光客の誘致拡大はもとより、伝統漁法の継承についても考える機会としたい。

今年に関市で「第21回全国鵜飼サミット」が開催される。全国12カ所ある鵜飼開催地とウミウ捕獲地の関係者が一堂に会し、情報・意見交換を行うもので、互いに刺激し合い質の向上を図ることを目的に開催されてきた。

## 鮎漁と伝統漁法 美濃市の夜網漁

漆黒の間の中で行われる夜網漁。鵜飼とは一味違う野趣あふれる伝統漁法だ  
＝美濃市内



# 闇を切り裂く光と音

## 世界農業遺産への道

岐阜県美濃市

鵜飼とは一味違った鮎漁。漆黒の間に追い込む、野趣あふれる伝統漁法「夜網漁」をふるる漁法だ。  
ご存じだろうか。

宵やみ迫る夕暮れから

長良川中流域の美濃市

網を仕掛け、周囲がす

に伝わるこの漁は、闇と

かり暗くなる午後8時

静寂が漂う川面にかがり

るから舟をこぎだし、静

火をたき、舟に乗った漁

かな山あい光と音を響

師らが櫓で舟をこぎ、ト

かせながら1時間ほど漁

「ト」とたたきながら

を行つ。最後に網がたぐ

く鮎が1匹また1匹と揚  
がり、漁師たちの顔に笑  
みがこぼれる。  
以前は和紙の里で知ら  
れる長良川支流の板取川  
でも多くみられた風景だ  
ったが、現在は長良川と  
板取川を合わせても数人  
のグループのみが行つ、  
貴重な夏の風物詩となっ  
ている。しかし、川と一  
緒に暮らしてきた人々の  
知恵と技が生んだ夜網漁  
は、大切に受け継いでい  
きたい「里川文化」の一  
つといえるだろう。

じめ川底に仕掛けておい

火のあかりで真っ白に輝

# 鮎漁と伝統漁法 郡上釣り

## 脈々と受け継ぐ技法

### 世界農業遺産への道

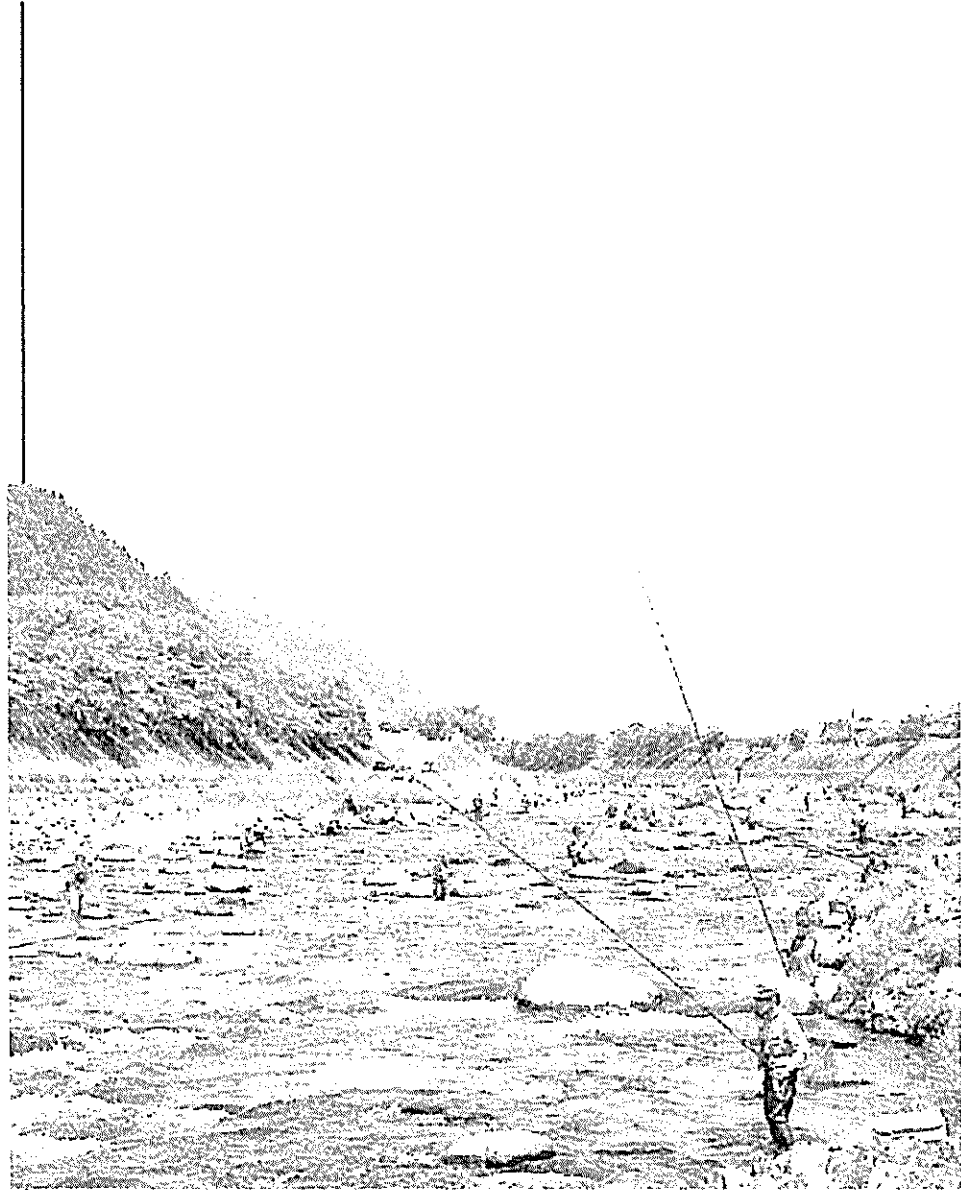
鮎を捕るには「ヤナ」  
「瀬張り網」など、さま  
さまな漁法がある。その  
うちの「友釣り」は鮎の  
縄張りをつくる習性を利  
用し、オトリ鮎に掛け針  
を付けて、野生の鮎を掛

けて釣る。オトリ鮎を、  
縄張りを持った鮎のど  
ろへ泳がせてやると、追  
い私おつとして体当たり  
してくる。そのとき、オ  
トリ鮎に付けた掛け針に  
鮎が引っ掛かるわけだ。

長良川上流の郡上地区  
には「郡上釣り」と呼ば  
れる友釣りの技法が代々  
受け継がれてきた。郡上  
釣りの特徴は、鮎が生息  
する川の流れを読み取る  
観察力と、長良川の強い  
流れの中から鮎を釣るた  
めに改良、進化させた、郡  
上竿」や「郡上タモ」と  
いった釣り道具を用い、  
鮎が付く流れにオトリ鮎  
法」おわり」

最近の友釣りは、道具  
もさらに進化し、竿は長  
くなり、糸は細くなつて、  
鮎が釣りやすくなったと  
言われている。しかし、  
郡上釣りによって培われ  
た観察力や技法の延長線  
上に、昨今の友釣りが成  
り立っていることも事実  
であり、郡上釣りが進化  
し続け、今に伝えられて  
いる。「鮎漁と伝統漁

を入れ、鮎が掛かったら  
一気に引き抜いて取り込  
む技術にある。



釣り人でにぎわう長良川。郡上地域には伝統の「郡上釣り」が根付く  
= 郡上市内